

# 株主・投資家のみなさまへ

2005年度(第69期) 大和証券グループ ビジネスレポート  
(2005年4月1日～2006年3月31日)

PASSION  
FOR THE  
BEST

大和証券グループ本社

Daiwa Securities Group Inc.

# ごあいさつ

**株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
ここに、2005年度における大和証券グループの実績をご報告いたします。**

2005年度は、2003年度からの3か年計画である前中期経営計画“ Best Brand Daiwa 2005 ”の最終年度にあたりました。同計画では、「クオリティNo.1」「生産性No.1」を経営目標に掲げ、確固たるリーディングカンパニーとしての地位の確立を目指してきました。そのために、「リテールビジネス」「トレーディング収益」「日本経済再生ビジネス」「人材マネジメント」および「コーポレート・ガバナンス」の5つを重点項目として取り組みました。

2005年度の実績は、こうした取組みが奏功したことにより、当社グループの業務の質、そして生産性が大きく向上したことを示しているのではないかと考えています。

同計画においては数値目標として、連結経常利益1,270億円、連結株主資本利益率(ROE)10%、トレーディング収益1,400億円、大和証券顧客資産21.5兆円を掲げていました。2005年度においては、それぞれ2,606億円、19.4%、2,249億円、27.6兆円と、いずれも大幅に上回る結果となりました。特にROEでは同業他社を上回る実績となっています。これは、当社が株主のみなさまからお預りしている資本を有効に活用していることを示しています。

こうした結果を受けて、2005年度の年間配当金は1株当たり34円と、過去最高であった14円を大幅に上回る水準としました。当社の配当方針では、連結の配当性向30%程度を目標としていますが、昨年度の配当性向は32.2%となりました。他社を上回るROE、そして高い配当は、株主のみなさまにもご満足いただけたのではないかと考えています。

2005年度においては、さまざまな実績を残すことができました。そのうちのいくつかをご紹介します。  
大和証券が提供しているサービスのひとつで、

主に個人のお客様に対する投資顧問業の一任運用であるダイワSMAの契約資産残高が、3月末に1,590億円に達しました。業界No.1の実績となっています。

また、毎月分配型のダイワ・グローバル債券ファンドの運用残高が、3月末現在で1兆円を超えました。大和証券1社でこれを成し遂げたことは、私どもにとりまして大きな自信となっています。

大和証券SMBCでは、主幹事リーグテーブルが新規公開と社債総合で1位となりました。特に社債総合は3年連続の1位となっています。大和総研では、週刊「エコノミスト」誌および日経金融新聞のアナリスト総合ランキングで3年連続トップとなりました。

私どもが注力しているCSR(企業の社会的責任)の面でも大きな成果がありました。当社が毎年発行している持続可能性報告書が、環境大臣賞である「持続可能性報告大賞」を受賞しました。

また、好業績を背景に当社の株価はこの1年間で大きく上昇しました。時価総額は3月末現在で2兆円を超え、東京証券取引所一部上場企業のランキングでは47位まで上昇しました。

こうした実績を受けて就職人気ランキングも躍進しています。週刊「東洋経済」誌では総合27位と前年の127位から大幅にランクアップしました。そのうち金融機関だけでのランキングでは第3位と、証券業界トップに踊り出しました。他にも週刊「ダイヤモンド」誌や日本経済新聞などでランクアップしており、学生のみならずから高い評価をいただいています。これは、優秀な人材の確保、ひいては当社グループの競争力強化に繋がるものであり、大変喜ばしいことです。

このように、2005年度は業績はもちろん、それ以外の面でも大きな成果を残せた年でした。また、社員のモチベーションも大いに高まっており、今後の大和証券グループの大飛躍を感じさせる1年でした。

こうした実績を受けて、当社グループでは、2006年度からの新たな3か年計画である新グループ中期経営計画“ Passion for the Best ” 2008 を策定しました。同計画の概要は、本誌において紹介していますのでご参照ください。

2005年度は株式市場が活況を呈し、個人金融資産が「貯蓄から投資へ」といよいよ本格的に動き始めた年であったと考えています。この流れは今後ますます加速し、一方で企業は資本市場の活用をさらに積極化させるでしょう。資本市場はあるべき姿に向かって進んでおり、金融ビジネスの中心が、これまでの預貯金から私どものホームグラウンドである証券ビジネスに移ってきています。私どもが最も得意とするこの分野で、競争に負けることはありません。私どもは、情熱と高い志、そして向上心を持って業務に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



株式会社 大和証券グループ本社  
執行役社長(CEO)

鈴木 茂徳

## 2006年度 大和証券グループ経営方針

### 情熱・創造・実行、そして進化

～ フルスロットル～

大和証券グループを取り巻く環境やお客さまのニーズは、刻々と変化しています。それらの変化に対応し、新たなニーズを喚起するためにも、我々自身が持つ創造力と実行力を存分に発揮し、柔軟かつ迅速に進化を続けていかなければなりません。グループ全役職員の溢れるパワーを全開にし、一丸となって「日本最高の証券グループ」を目指していきます。

# 大和証券グループについて

## 大和証券グループの事業構造

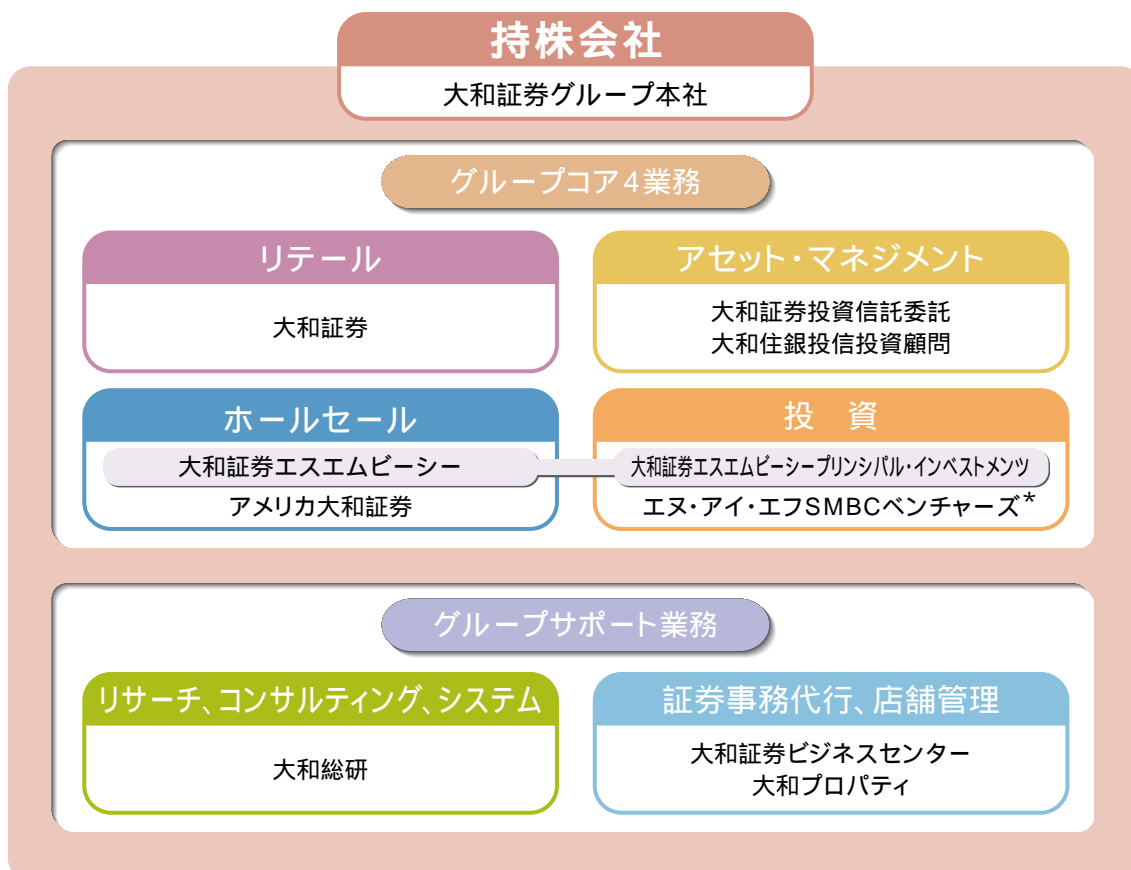
大和証券グループは、持株会社である大和証券グループ本社のもと、グループのコア(核)となるリテール、ホールセール、アセット・マネジメントの3業務に、今後コア業務に成長する投資業務を加えた4業務およびグループサポート業務の連携による総合的な金融サービスを提供しています。

このうち、主に個人や未上場法人のお客さまを対象とするリテール証券業務を営むのは大和証券であり、全国115の店舗網とオンライン、コールセンターを通じて商品・サービスを提供しています。

国内外で、法人のお客さま向けの資金運用や投資銀行などのホールセール証券業務を営むのは三井住友フィナンシャルグループとの合併会社である大和証券エスエムピーシー(海外子会社を含む)とアメリカ大和証券であり、ますます多様化・高度化するお客さまのニーズに対して、的確な商品・サービス、そしてソリューション(解決策)を提供しています。

投資信託や年金の運用などのアセット・マネジメント業務を営むのは大和証券投資信託委託および持分法適用会社である大和住銀投信投資顧問です。また、投資業務を営むのは、大和証券エスエムピーシーの子会社である大和証券エスエムピーシープリンシパル・インベストメンツとエヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズ\*です。

グループサポート業務では、リサーチ、コンサルティング、システム業務の大和総研、証券事務代行業務の大和証券ビジネスセンター、店舗管理業務の大和プロパティなどがコア業務を支えています。このように、当社グループでは、各業務の密接な連携によりグループ企業価値の向上を図っています。



\*2005年10月1日に、エヌ・アイ・エフ ベンチャーズとSMBCキャピタルの合併により誕生しました。

# 大和証券グループ中期経営計画

## 新グループ中期経営計画 “Passion for the Best” 2008

当社グループは、お客さまに信頼される「日本最高の証券グループ」を築くために、2006年4月から2008年3月までの3ヵ年計画である新グループ中期経営計画 - “Passion for the Best” 2008 - を策定しました。

### 全体像

新中期経営計画では、まず今後3年間の事業環境を想定したうえで、当社グループの将来像としての経営ビジョンを描き、その実現に向けた経営目標および基本戦略を策定しました。

#### (1) 環境想定

新中期経営計画の策定にあたっては、経済環境、市場環境など、全体として比較的保守的な環境を想定しています。主な内容は、以下のとおりです。

- ・ 資産デフレを脱却し、日本経済は着実に成長する。
- ・ 消費者物価指数は上昇に転じるが、緩やかなインフレにとどまる。
- ・ 好調な企業業績を反映し、株式市場は上昇基調に推移するが、大幅な上昇は見込んでいない。
- ・ 「貯蓄から投資」への流れは継続する。

#### (2) 経営ビジョン

当社グループが描く3年後の経営ビジョンは、「お客さまからの信頼と社員の情熱で築く『日本最高の証券グループ』」です。

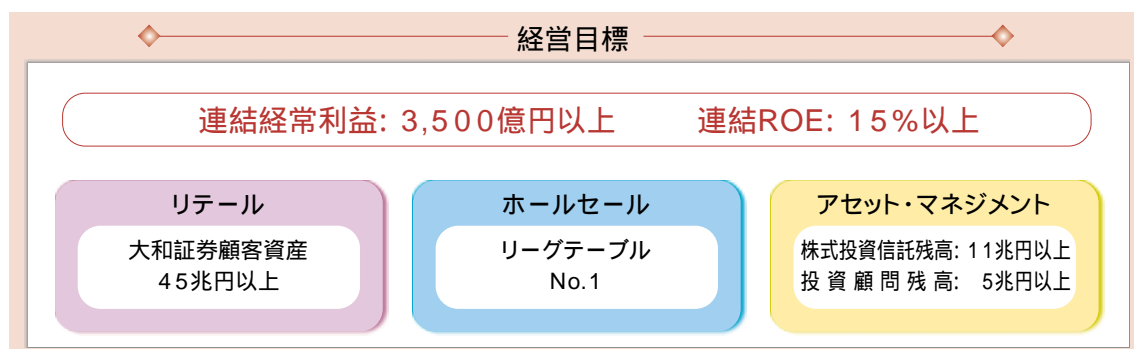
現在の主要業務である、リテール、ホールセール、アセット・マネジメントに加え、投資業務も主要なビジネスのひとつに成長します。独自のビジネスモデルの構築により、競争力を高め、安定的かつ多様な収益基盤を構築します。同時に、証券ビジネスに関するお客さま満足度調査やランキングにおいても、最高の評価を獲得。CSR(企業の社会的責任)への取組みや法令遵守の徹底により、各ステークホルダー(利害関係者)からも高い信頼を得ます。そして、社員一人ひとりが「日本最高の証券グループ」の一員として、高い志と情熱を持って仕事にチャレンジします。

これが私どもが描く3年後の大和証券グループです。

#### (3) 経営目標

新中期経営計画では、連結経常利益3,500億円以上、連結ROE15%以上を目標に掲げています。過去最高の経常利益である1989年度の3,391億円を上回る目標となっています。

部門別では、リテール部門で大和証券顧客資産45兆円以上、ホールセール部門でリーゲテーブルNo.1、アセット・マネジメント部門で株式投資信託残高11兆円以上、投資顧問残高5兆円以上を目標に掲げています。いずれも「以上」とあるように、これらを最低限達成すべき目標として取り組んでいきます。



# 大和証券グループ中期経営計画

## 各業務部門(主要会社)の戦略

PASSION  
FOR THE  
BEST

### (1)リテール(大和証券)

リテール部門を担う大和証券は、「日本最高の証券会社」として、営業員による高付加価値のサービスを提供する「ダイワ・コンサルティング」、豊富な品揃えで情報が充実した「ダイワ・ダイレクト」、富裕層から支持される「ダイワSMA」などの独自のビジネスモデルにより、競争力の高い多様な金融商品・サービスを提供します。

新中期経営計画における基本戦略は、「No.1の実績の積み重ね」です。コンサルティングでは重点商品の販売推進により資産導入を図り、株式型投資信託および債券型投資信託においてNo.1を獲得します。「ダイワ・ダイレクト」では、お客さまの利便性の向上により、オンライン業界No.1の地位を確立します。「ダイワSMA」では、運用力の向上とシステム・人材の強化により、同社の特徴である投資顧問型SMAで圧倒的No.1の地位を維持します。

### (2)ホールセール(大和証券SMBC)

ホールセール部門を担う大和証券SMBCは、「日本最高の投資銀行」として、投資銀行業務を核に幅広い金融サービスを提供します。収益の絶対水準の向上が不可欠となるなか、部門間の連携をさらに強化し、付加価値の高い商品・サービス、そしてソリューションの提供を進めることで、既存ビジネスの収益性向上と新たな収益源の開発を目指します。また、投資銀行の3大基幹業務であるエクイティ(株式)、デット(債券)、M&A(企業の合併・吸収)の各分野でリーグテーブルNo.1を獲得します。

さらに、重点強化項目となるトレーディング(株式・債券等の売買取引)、プリンシパル・インベストメント(自己資金による投資)業務の抜本的強化を図ります。特に投資業務では、これまで投資した案件の収益化を継続的に実現するとともに、優良案件へ積極的に投資し、将来の収益拡大を図ります。

### (3)アセット・マネジメント(大和証券投資信託委託、大和住銀投信投資顧問)

アセット・マネジメント部門を担う大和証券投資信託委託と大和住銀投信投資顧問は、「日本最高の資産運用会社」を目指します。

大和証券投資信託委託の基本戦略は、株式投資信託の残高拡大です。運用力の強化はもちろん、銀行や郵便局における窓口販売の拡大も図ります。また、商品提供力を一段と強化し、大規模ファンドの本数増加を実現します。

一方、大和住銀投信投資顧問は、高度な運用力を基盤として、外部評価のさらなる向上を図ります。また、日本株式運用に加え多様な商品を提供することで、国内のみならず海外においても年金受託残高の拡大を目指します。

### (4)新規ビジネス

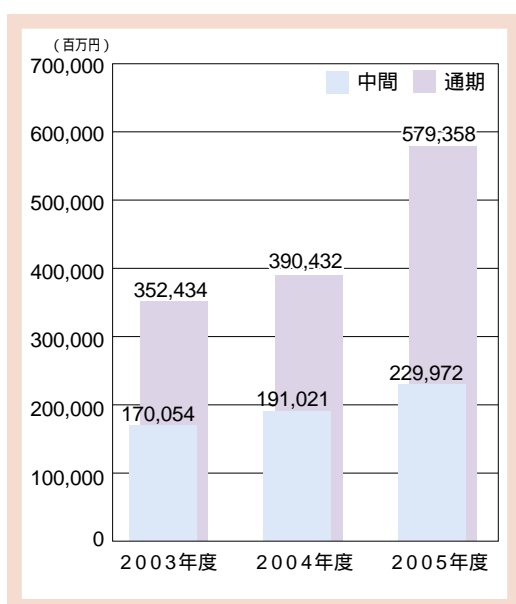
新中期経営計画においては、今後の主な新規事業として、コモディティ関連ビジネス、不動産関連ビジネス、金融とネットおよびメディアの融合、ローンビジネスの4つを掲げています。証券関連事業は多方面で拡大することが予想されるなか、戦略的な投資などを活用し、異業種企業との提携も展開していきます。

# 決算ハイライト

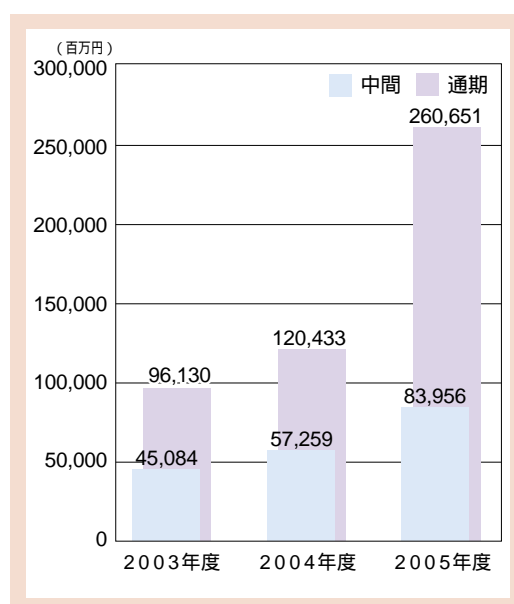
## 2005年度決算(2005年4月1日～2006年3月31日)のご報告

2005年度の連結純営業収益は、受入手数料およびトレーディング損益が好調に推移したことなどにより、5,793億58百万円(前年度比48.4%増)となりました。一方、販売費・一般管理費が3,251億99百万円(同18.0%増)にとどまったことから、経常利益は2,606億51百万円(同116.4%増)、当期純利益は1,399億48百万円(同165.7%増)と増益となりました。また配当金は、期末の配当22円、中間配当12円と合わせて、年間で34円(同21円増)となりました。

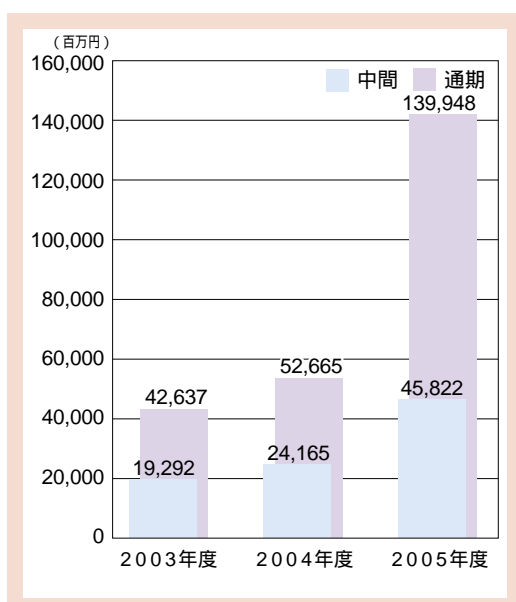
### 純営業収益 前年度比 +48.4%



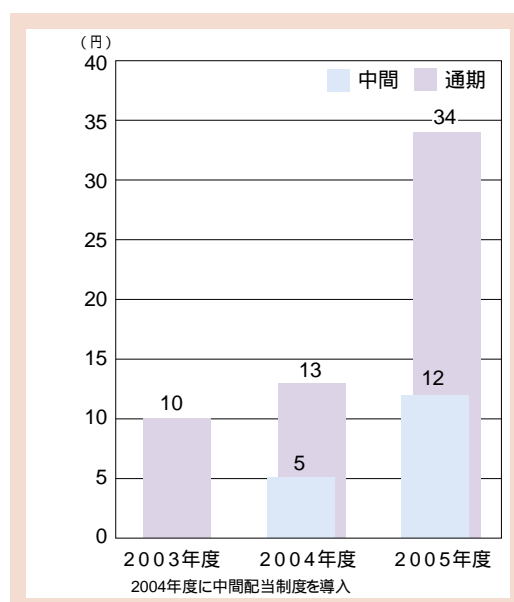
### 経常利益 前年度比 +116.4%



### 当期純利益 前年度比 +165.7%



### 配当金



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	2005年度 (2006.3.31現在)	2004年度 (2005.3.31現在)	前年度比
(資産の部)			
流動資産	14,392,393	11,936,024	2,456,368
現金・預金	407,889	398,688	9,201
預託金	297,878	153,516	144,361
受取手形及び売掛金	11,368	8,635	2,733
有価証券	20,205	15,037	5,167
■トレーディング商品	6,162,242	5,242,319	919,922
約見返勘定	-	9,419	9,419
■営業投資有価証券	390,917	149,598	241,319
投資損失引当金	8,496	7,051	1,445
その他の棚卸資産	2,271	816	1,455
信用取引資産	563,537	312,144	251,393
有価証券担保貸付金	6,274,505	5,348,915	925,589
立替金	25,940	11,458	14,481
有価証券等引渡未了勘定	25,717	130,176	104,458
短期貸付金	59,997	75,781	15,784
未収収益	36,558	17,463	19,095
■繰延税金資産	20,187	9,076	11,110
その他の流動資産	101,965	60,354	41,610
貸倒引当金	293	328	34
固定資産	506,497	442,937	63,560
有形固定資産	126,531	137,619	11,088
無形固定資産	68,813	62,052	6,760
投資その他の資産	311,153	243,265	67,888
投資有価証券	249,647	178,163	71,484
長期貸付金	11,866	11,681	184
長期差入保証金	23,538	23,410	127
■繰延税金資産	9,300	12,839	3,539
その他の投資等	18,651	25,715	7,064
貸倒引当金	1,851	8,546	6,694
資産合計	14,898,890	12,378,961	2,519,928

### トレーディング商品

証券会社が業務を行うため、自己の計算において保有する有価証券、デリバティブ取引などのことです。前年度末からは主に通貨オプションなどのデリバティブ取引が増加しています。

### 営業投資有価証券

エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズおよび大和証券エスエムビーシープリンシパル・インベストメンツが行っている投資(有価証券、投資事業有限責任組合等への出資)を計上しています。

### 繰延税金資産

会計上の資産・負債と税務上の資産・負債の金額に差異のあるもののうち、将来の課税所得を減額させるものや税務上の繰越欠損金など将来の支払税金額が減額されるものについて、その支払税金額の減額相当額を合理的に算定し資産計上したものです。



(単位:百万円)

科 目	2005年度 (2006.3.31現在)	2004年度 (2005.3.31現在)	前年度比
(負債の部)			
流動負債	12,812,909	10,685,604	2,127,304
支払手形及び買掛金	5,138	3,369	1,768
トレーディング商品	4,879,188	3,658,544	1,220,644
約定見返勘定	302,572	-	302,572
信用取引負債	197,482	141,972	55,510
有価証券担保借入金	4,744,007	3,877,730	866,276
預り金	166,508	110,415	56,093
受入保証金	99,224	53,302	45,922
有価証券等受入未了勘定	20,188	138,288	118,099
短期借入金	1,795,320	2,295,928	500,608
コマーシャル・ペーパー	234,210	200,220	33,990
一年以内償還社債	80,207	129,401	49,194
一年以内償還転換社債	79,193	-	79,193
未払法人税等	73,779	10,596	63,182
繰延税金負債	2,898	951	1,946
賞与引当金	41,713	22,811	18,902
その他の流動負債	91,273	42,071	49,202
固定負債	1,049,956	850,180	199,776
社債	819,559	666,136	153,422
転換社債	-	79,985	79,985
長期借入金	167,952	74,195	93,757
繰延税金負債	39,007	6,225	32,782
退職給付引当金	19,912	19,173	738
その他の固定負債	3,525	4,465	940
特別法上の準備金	7,024	5,650	1,374
負債合計	13,869,891	11,541,435	2,328,455
少数株主持分	236,718	189,193	47,524
(資本の部)			
資本金	138,828	138,432	395
資本剰余金	118,339	117,941	398
利益剰余金	476,216	362,948	113,267
其他有価証券評価差額金	72,694	35,674	37,020
為替換算調整勘定	863	5,877	6,740
自己株式	14,660	786	13,873
資本合計	792,281	648,332	143,948
負債、少数株主持分及び資本合計	14,898,890	12,378,961	2,519,928

#### 一年以内償還社債の内訳

大和証券グループ本社および子会社が発行した普通社債やメディアム・ターム・ノートなどのうち、1年以内に償還期限を迎えるものを計上しています。

#### 転換社債

1999年に大和証券グループ本社が発行した転換社債が2006年9月に償還期限を迎えるため、「一年以内償還転換社債」に振り替えています。

# 連結財務諸表

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2005年度 (2005.4.1~2006.3.31)	2004年度 (2004.4.1~2005.3.31)	前年度比 (増減率 %)
<b>営業投資有価証券 関連損益</b>			
営業収益	845,659	519,337	62.8
受入手数料	309,188	216,386	42.9
トレーディング損益	224,912	151,117	48.8
■営業投資有価証券関連損益	21,539	-	-
営業投資有価証券売買損益	-	171	-
金融収益	245,210	118,019	107.8
その他の売上高	44,808	33,641	33.2
金融費用	231,572	103,676	123.4
売上原価	34,729	25,228	37.7
純営業収益	579,358	390,432	48.4
販売費・一般管理費	325,199	275,544	18.0
■取引関係費	63,909	46,720	36.8
■人件費	171,061	142,751	19.8
不動産関係費	32,659	32,697	0.1
事務費	17,273	16,804	2.8
減価償却費	22,640	22,129	2.3
租税公課	8,071	6,755	19.5
その他	9,582	7,685	24.7
営業利益	254,159	114,887	121.2
営業外収益	8,697	7,909	10.0
営業外費用	2,204	2,363	6.7
経常利益	260,651	120,433	116.4
■特別利益	14,825	9,552	55.2
■特別損失	17,122	17,383	1.5
税金等調整前当期純利益	258,355	112,603	129.4
法人税、住民税及び事業税	77,675	11,933	550.9
■法人税等調整額	391	28,233	98.6
少数株主利益	40,339	19,770	-
当期純利益	139,948	52,665	165.7
純営業収益に含まれる金融収支	13,638	14,342	4.9

**営業投資有価証券  
関連損益**

エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズおよび大和証券エスエムビーシープリンシパル・インベストメンツが行っている投資(有価証券、投資事業有限責任組合等への出資)につき、これらの売却損益や組合等の営業により獲得した損益(従来は金融収益に計上)を計上しています。

**取引関係費**

銀行等の仲介による債券販売にかかる支払手数料や、広告宣伝費などが増加しています。

**人件費**

業績に連動する賞与が増加しています。

**特別利益**

投資有価証券売却益  
63億85百万円  
持分変動益  
47億25百万円  
関係会社株式売却益  
37億14百万円

**特別損失**

減損損失  
68億50百万円  
臨時償却費  
44億39百万円  
海外子会社為替差損  
15億63百万円 等

**法人税等調整額**

税効果会計上の勘定科目で、財務会計上の税引前利益と税金費用の額とを期間対応させるなど、税金費用の調整を行う科目です。

## 連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	2005年度 (2005.4.1～2006.3.31)		2004年度 (2004.4.1～2005.3.31)	
(資本剰余金の部)				
資本剰余金期首残高		117,941		117,939
資本剰余金増加高				
転換社債の転換による新株式の発行	395		0	
自己株式処分差益	2	398	1	1
資本剰余金減少高	-	-	-	-
資本剰余金期末残高		118,339		117,941
(利益剰余金の部)				
利益剰余金期首残高		362,948		330,780
利益剰余金増加高				
当期純利益	139,948		52,665	
子会社合併による増加高	609	140,557	-	52,665
利益剰余金減少高				
<b>配当金</b>	26,611		19,960	
取締役賞与金	678	27,290	536	20,497
利益剰余金期末残高		476,216		362,948

### 配当金

2005年度の配当金266億11百万円は、当社の2004年度期末配当金8円/株および2005年度中間配当金12円/株など、2005年度中の支払いについてのものです。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	2005年度 (2005.4.1～2006.3.31)		2004年度 (2004.4.1～2005.3.31)	
営業活動による キャッシュ・フロー		369,860		1,002,888
投資活動による キャッシュ・フロー		911		26,062
財務活動による キャッシュ・フロー		324,056		883,867
現金及び現金同等物の 期末残高		392,350		338,697

# 業績概況

2005年度決算(2005年4月1日～2006年3月31日)の概況をご説明いたします。

## 1 純営業収益

### (1) 受入手数料

#### 委託手数料

東京証券取引所の1日平均株式売買代金が2兆4,045億円(前年度比68.7%増)と好調だったことなどから、委託手数料は1,195億20百万円(同43.1%増)となりました。

#### 引受け・売出手数料

株式の大型引受案件の主幹事を務めたことなどから、引受け・売出手数料は643億13百万円(同17.5%増)となりました。

#### 募集・売出しの取扱手数料

「ダイワ・グローバル債券ファンド」等の株式投資信託の販売が好調だったことなどから、アセット・マネジメント部門の募集・売出しの取扱手数料が417億98百万円(同112.3%増)と倍増し、全体でも438億30百万円(同88.2%増)となりました。

#### その他の受入手数料

株式投資信託の残高増加に伴い、投資信託の信託報酬が増加したことから、アセット・マネジメント部門の手数料が402億68百万円(同56.1%増)と好調に推移しました。また、M&A手数料や生命保険販売手数料の増加などにより、その他の受入手数料の合計は815億23百万円(同48.7%増)となりました。

### (2) トレーディング損益

株式相場の上昇に伴い取引が活発化するなか、株券等トレーディング損益が1,242億70百万円(同121.5%増)と好調であったことから、トレーディング損益合計では2,249億12百万円(同48.8%増)となりました。

### (3) 金融収支

金融収益は2,452億10百万円(同107.8%増)、金融費用は2,315億72百万円(同123.4%増)とともに増加しました。前期まで金融収益に計上していた組合等が獲得した損益を、営業投資有価証券関連損益へ振り替えたことに伴い、金融収益から金融費用を差し引いた金融収支は136億38百万円(同4.9%減)と減少しました。

## 2 販売費・一般管理費

債券販売に伴う支払手数料や、広告宣伝費などの取引関係費が増加したほか、業績伸長に伴い、賞与を中心とする人件費が増加したことなどにより、販売費・一般管理費合計は3,251億99百万円(同18.0%増)となりました。

## 3 特別損益

特別利益では、投資有価証券売却益63億85百万円、エヌ・アイ・エフ ベンチャーズが行った第三者割当増資に伴う持分変動益47億25百万円など、合計148億25百万円を計上しました。また特別損失では、使用廃止を決定した福利厚生施設等に対する減損損失68億50百万円、本店ビル移転決定に伴う現本店ビル等の臨時償却費44億39百万円など、合計171億22百万円を計上しました。

## 4 海外子会社の業績

地域別経常利益

(単位:百万円)

米州	欧州	アジア・オセアニア	海外計
2,695	10,185	3,442	16,322

## 大和証券グループ本社(単体)

(単位:百万円)

貸借対照表(2006年3月31日現在)

流動資産	313,632	流動負債	278,064
固定資産	911,010	固定負債	332,754
		負債合計	610,819
		(資本金)	(138,828)
		資本合計	613,824
資産合計	1,224,643	負債・資本合計	1,224,643

損益計算書(2005年4月1日~2006年3月31日)

営業収益	35,215
営業費用	12,181
うち販売費・一般管理費	9,210
営業利益	23,033
経常利益	25,140
当期純利益	51,335

## 大和証券

(単位:百万円)

貸借対照表(2006年3月31日現在)

流動資産	776,188	流動負債	546,028
固定資産	60,742	固定負債	39,679
		特別法上の準備金	1,847
		負債合計	587,554
		(資本金)	(100,000)
		資本合計	249,376
資産合計	836,931	負債・資本合計	836,931

損益計算書(2005年4月1日~2006年3月31日)

営業収益	258,943
純営業収益	257,988
販売費・一般管理費	156,990
営業利益	100,997
経常利益	101,057
当期純利益	58,174

## 大和証券エスエムビーシー(連結)\*

(単位:百万円)

貸借対照表(2006年3月31日現在)

流動資産	11,448,030	流動負債	10,219,735
固定資産	76,883	固定負債	753,933
		特別法上の準備金	5,177
		負債合計	10,978,846
		(資本金)	(205,600)
		資本合計	544,985
資産合計	11,524,914	負債・資本合計	11,524,914

損益計算書(2005年4月1日~2006年3月31日)

営業収益	350,818
純営業収益	311,568
販売費・一般管理費	171,905
営業利益	139,662
経常利益	141,582
当期純利益	91,883

\*大和証券エスエムビーシープリンシパル・インベストメンツおよび海外子会社を加えた連結業績を開示しています。

## 主な国内グループ会社

(単位:百万円)



2005年4月1日~ 2006年3月31日	大和証券 投資信託委託	大和総研	大和住銀 投信投資顧問	エヌ・アイ・エフ SMBCベンチャーズ*
営業収益	31,374	78,915	16,247	9,356
販売費・一般管理費	27,402	10,154	5,319	4,328
営業利益	3,971	7,248	4,591	4,630
経常利益	4,435	7,325	4,613	4,800
グループ持分 (2006年3月31日現在)	100.0%	100.0%	44.0%	46.2%

\*2005年10月1日に、エヌ・アイ・エフ ベンチャーズとSMBCキャピタルの合併により誕生しました。

# 年表

月	会社名	主な出来事
2005年 4月	大和証券グループ	当社グループの新キャラクターとして女優の伊東美咲さんを起用 「ルーヴル美術館展 19世紀フランス絵画新古典主義からロマン主義へ」に特別協賛 「第63期将棋・名人戦」および「第60期囲碁・本因坊戦」に協賛
	大和証券グループ本社	早稲田大学に寄附講座「ベンチャー起業家養成基礎講座」を開設
	大和証券	店舗への来店により、「ダイワ・ダイレクト」コースの「信用取引サービス」の即時口座開設が可能に
5月	大和証券グループ	「フェニーチェ歌劇場日本公演2005」に特別協賛
	大和証券	「ダイワ・ダイレクト」コースの大幅リニューアル第1弾: 新手数料体系「ダイワのポイント付1日定額手数料(愛称:ハッスルレート)」を「信用取引サービス」に導入、「約定ごと手数料の最大4割引下げ」を実施、「新規公開株式抽選参加サービス」に当選確率優遇ルールを導入
	大和証券SMBC	トムソンファイナンシャル社の「2004年度 DealWatch Awards」において、「Equity House of the Year」など9つの賞を受賞
	大和住銀投信投資顧問	米国の大手運用コンサルティング会社 ウィルシャー・アソシエイツ社と、ファンド・オブ・ヘッジファンズに関し業務提携
6月	大和証券グループ	「スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団」東京公演に特別協賛
	大和証券SMBC	米格付機関 スタンダード&プアーズが、大和証券SMBCの長期格付をBBB+からA- に格上げ
	大和住銀投信投資顧問	年金運用商品「バリュウ型」「積極型BBB」が、運用コンサルタント会社 マーサー社の「第3回マーサーMPA(Japan)アワード」を受賞
7月	大和証券グループ	フジサンケイ女性起業家支援プロジェクト「Woman's ビジネスチャレンジコンテスト 2005」を共催
	大和証券	「ダイワ・ダイレクト」コースの大幅リニューアル第2弾: 現物取引にも「ハッスルレート」を導入、「ダイワのネット図書館」「ループ取引」「二階建取引」などを開始 川西能勢口駅営業所、越谷営業所、新座志木営業所、溝の口営業所、高円寺営業所の5つの営業所を支店と統合
	大和証券SMBC プリンシパル・インベストメンツ	同社が共同出資する世界銀行コミュニティ開発炭素基金の「エスペランザ水力発電プロジェクト(ホンジュラス)」がクリーン開発メカニズムとして承認され、10月には同プロジェクトに対し、京都議定書に基づく温室効果ガス排出権が世界で初めて発行される
8月	大和証券	「オンライントレードコーナー」を順次全営業店に設置
	大和証券SMBC プリンシパル・インベストメンツ	大手ホテルチェーン 三井観光開発の第三者割当増資の引受けを決定 大手書店 丸善の第三者割当増資を引受け、資本参加
	大和投資信託	10月から全国の郵便局で販売される投資信託に、「大和 ストック インデックス 225 ファンド」が選定される
9月	大和証券グループ本社	「ダウジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス(DJSI World)」の構成銘柄として、7年連続で採用される
	大和証券グループ本社、 大和証券	米格付機関 スタンダード&プアーズが、グループ本社および大和証券の長期格付をBBBからBBB+に格上げ
	大和証券	お客さまが「ダイワのオンライントレード」に関して気軽にお問合せできる窓口「オンラインサポートデスク」を全営業店に設置
	大和証券SMBC プリンシパル・インベストメンツ	大手ゼネコン 三井住友建設の第三者割当増資を引受け、資本参加

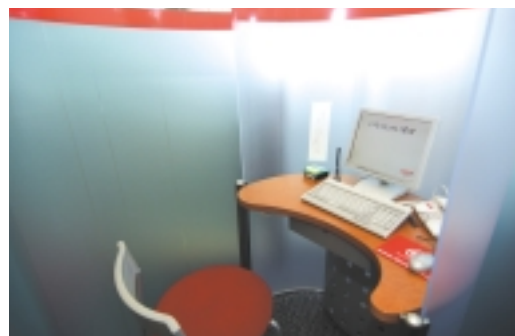


月	会社名	主な出来事	
10月	大和証券	「ダイワのオンライントレード」で報告書類を閲覧できるダイワの「eメンバー」サービスを開始 オンライントレードでの香港株式の取扱いを開始 「ダイワ・ダイレクト」コースの口座数が50万口座を突破 QUEEN+PAUL RODGERS(クイーン+ポール・ロジャース)の来日コンサートに協賛	
	大和総研	週刊『エコノミスト』誌の「第9回アナリスト・エコノミストランキング」の所属会社別ランキングで、3年連続1位を獲得	
	エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズ	エヌ・アイ・エフベンチャーズとSMBCキャピタルが合併し、エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズが誕生 	
11月	大和証券グループ本社、大和証券	米格付機関ムーディーズが、グループ本社の長期格付をBaa3からBaa1に、大和証券の長期格付をBaa2からBaa1に格上げ	
	大和証券	団塊世代の豊かなセカンドライフ実現に向けた提案を紹介するホームページ「ゆうゆうサイト」を開設 携帯電話(iモード)での「信用取引サービス」の提供を開始	
	大和証券SMBC	本年度の新規公開で最大の募集額となった、SUMCO(東証1部)の事務主幹事に	
12月	大和証券グループ	日本経済新聞に掲載した3点の広告が、第54回日経広告賞の部門賞(金融・コンサルティング・人材部門)を受賞 	
	大和証券	SMA本部を設置し、「ダイワSMA」推進のための体制を強化 「ダイワSMA」の契約資産残高が1,000億円を突破	
	大和証券SMBC プリンシパル・インベストメンツ	三洋電機、ゴールドマン・サックス・グループおよび三井住友銀行との4社間で、三洋電機の優先株式の引受けについて基本合意書を締結	
2006年	1月	大和証券グループ本社	「大和証券グループ 持続可能性報告書2005」が『持続可能性報告大賞(環境大臣賞)』を受賞 1月末から2月にかけて、東京証券取引所にて自己株式1,000万株を取得
大和証券		コールセンターにおいて、電話回線および自動音声応答を増強	
大和証券SMBC		タイのバンコクに駐在員事務所を開設	
2月	大和証券グループ本社	第3回無担保社債および第4回無担保社債(計1,000億円)を発行	
	大和証券	「ダイワ・ダイレクト」コース専用サービスとして「外国為替証拠金取引(サービス名称:ダイワFX)」の取扱いを開始 コールセンターにおいて、オペレーターを大幅増員 三鷹営業所を支店に昇格	
	大和証券SMBC	インドのムンバイに駐在員事務所を開設	
	大和証券SMBC、 大和証券SMBC プリンシパル・インベストメンツ	排出権価格参照クーポン付ユーロドル債(CO2L Bond クールボンド)を共同開発	
3月	大和証券	ニッセンと証券仲介業において業務提携、サービスを開始 携帯電話(EZweb、Vodafone live!)において「信用取引サービス」「ダイワFX」の提供を開始 ダイワ・グローバル債券ファンドの純資産総額が1兆円を突破	
	大和総研	日経金融新聞の「第18回人気アナリスト調査」で、アナリスト、ストラテジスト等を含む企業別総合ランキングで3年連続1位を獲得	

大和証券では、2005年5月より、段階的に「ダイワ・ダイレクト」コースのリニューアルを実施してきました。その結果、多くのお客さまにご好評をいただき、2006年3月末には口座数が約58万口座、「信用取引サービス」の信用建残高が約1,700億円となりました。また2006年度には、夏を目処として、さらに利便性向上を図るためのリニューアルを予定しています。

### 安心サポート

大和証券では、「ネットでトレード。お店でサポート。」を合言葉に、店舗を活用した取組みを行っています。2005年9月には、お客さまが気軽にお問い合わせできる窓口として、全店に「オンラインサポートデスク」を設置したほか、店頭でオンライントレードをご体験いただける「オンライントレードコーナー」を設置しました。また、業界最大規模を誇るコールセンターにおいては、電話回線の増設をはじめ、TSR(オペレーター)の増員、450席体制への増床を行いました。



オンライントレードコーナー

### 「ダイワのネット図書館」開始

2005年7月より、業界トップクラスの大和総研アナリストによる最新のレポートなどをご覧いただける「ダイワのネット図書館」サービスを開始しました。

### ダイワの「eメンバー」サービスを開始

2005年10月からは、ダイワの「eメンバー」サービスを開始しました。当サービスでは、インターネットで報告書類を閲覧できるだけでなく、国内株式の口座管理料無料などの優遇サービスを受けることができます。(さらに「eメンバー」でお預かり資産1,000万円以上のお客さまは、上記の「ダイワのネット図書館」を1年間無料でご利用いただけます。)

### 取扱商品も充実

同じく10月より、オンラインでの香港株式の取扱いを始めました。また、2006年2月より、「ダイワ・ダイレクト」コース専用サービスとして、「ダイワFX」(外国為替証拠金取引)の取扱いを開始しました。



### 携帯電話でのサービスを拡大

お客さまの声に応え、携帯電話でも「信用取引サービス」「ダイワFX」などの取扱いを始めました。

### 2006年度ますますパワーアップ

2006年4月、ダイワのオンライントレードはおかげさまで誕生10周年を迎えました。4月の「ダイワのトレーディングボード」(豊富な投資情報を含む本格的なトレーディングツール)の導入をはじめ、今後も取引画面の操作性・機能性を大幅に向上させるとともに、よりシステムの安全性を図っていくなど、さまざまな取組みを予定しています。また、10周年を記念したさまざまなキャンペーンも実施中です。ぜひご期待ください。



## 社債総合、新規公開リーゲテーブル、国債落札ランキングで1位獲得

大和証券SMBC

大和証券SMBCは、2005年度の主幹事リーゲテーブルにおいて、社債総合と新規公開の2部門でトップとなりました。特に新規公開では、SUMCOやアルペンといった大型案件を含む33件もの主幹事を手掛けるなど、数多くの企業の公開に関わりました。また、2005年度で最大規模の日本株案件となった三井住友フィナンシャルグループをはじめ、楽天などの大型案件の主幹事を務めたことにより、株式公募・売出しのリーゲテーブルでは第2位となりました。さらに、国債落札ランキングでも第1位となりました。

### 2005年度主幹事リーゲテーブル

	社債総合 (普通社債+財投機関債)	新規公開	株式公募・売出し	サムライ債	ABS
1位	大和証券SMBC 19.2%	大和証券SMBC 31.0%	野村 34.1%	日興シティグループ 20.2%	みずほ 19.3%
2位	野村 18.7%	野村 22.3%	大和証券SMBC 26.2%	みずほ 20.1%	大和証券SMBC 16.0%
3位	三菱UFJ 17.2%	日興シティグループ 21.1%	日興シティグループ 10.3%	野村 12.5%	三菱UFJ 13.1%
4位	みずほ 16.8%	三菱UFJ 9.9%	みずほ 7.6%	大和証券SMBC 11.2%	日興シティグループ 6.7%
5位	日興シティグループ 14.2%	クレディスイス・ファースト・ボストン 3.5%	ゴールドマン・サックス 6.1%	三菱UFJ 10.7%	野村 6.2%

ABS(Asset Backed Securities)とは資産担保証券のこと。会社の所有する不動産や債権など、資産の信用力やキャッシュ・フローを裏付けにして、資金調達のために発行される有価証券。

## 週刊『エコノミスト』誌、日経金融新聞のアナリストランキングで3年連続1位に

大和総研

大和総研は、週刊『エコノミスト』誌(2005年11月1日号)で発表された「第9回アナリスト・エコノミストランキング」の所属会社別得点ランキングにおいて、3年連続1位を獲得しました。また、日経金融新聞(2006年3月20日)の「第18回人気アナリスト調査」の企業別総合ランキング(ストラテジスト、アナリスト等を含む)でも、同じく3年連続1位となりました。徹底した調査・分析を軸に安定的な実力を発揮できたことに加え、グループ各社との連携が奏功し、こうした結果に結びついたものと考えています。今後もお客さまや株主・投資家のみなさまのお役に立てる情報発信に努めていきます。

## 大和証券の店舗が変わります

大和証券

現在、大和証券では、2007年夏頃の完了を目処に全店舗のリニューアルを進めています。今回のリニューアルでは、全店舗のイメージに統一感をもたせるとともに、店内を情報エリアとコンサルティングエリアに分け、お客さまのご来店目的に応じたわかりやすい造りにします。金融機関としてお客さまのプライバシーに配慮するという観点から、相談カウンターをブース形式にし、他のお客さまから見えにくいように変更。また、お待ちいただいているお客さまにも快適に過ごしていただけるよう、カスタマーサロンを設置し、投資に関するさまざまな資料をご用意します。さらに、SMAや年金保険といった商品などを、本部専門スタッフからお客さまに直接ご提案できるよう、TV電話会議システムを導入した「商談室」を新たに設置します。大和証券は、お客さまのニーズに応えることで、より信頼される資産運用のパートナーになりたいと考えています。ぜひ、生まれ変わった大和証券の店舗にお越しください。



リニューアルした店舗のカスタマーサロン

# トピックス

## バンコクとムンバイに駐在員事務所を新設

大和証券SMBC

大和証券SMBCは、1月13日にタイのバンコク駐在員事務所、2月17日にインドのムンバイ駐在員事務所を開設しました。アジア危機を克服したタイにおいては、日系企業によるM&Aや現地企業による資金調達など、大きなビジネスチャンスが広がっています。またインドは、BRICs(新興大国であるブラジル、ロシア、インド、中国)の一角として経済の急速な発展が見込まれており、民営化に伴う案件や、日本をはじめとする海外からの投資の拡大が期待されています。こうした案件の発掘を見据え、両事務所では、情報収集や情報提供を行っていく予定です。



バンコク駐在員事務所が入居しているオフィスビル

## 就職人気ランキングが大躍進

大和証券グループ

1～2月にかけて、学生を対象にした就職人気ランキングが続々と発表されました。多くの企業が採用に力を入れるなか、当社グループは過去最高のランキングを記録しました。

週刊『東洋経済』誌(2006年1月28日号)の「2007年就職ブランドランキング」では、前回の127位から27位へと大躍進し、金融機関としては第3位、証券業界のトップへと躍り出ました。週刊『ダイヤモンド』誌(2006年2月11日特大号)の「就職人気企業ランキング」でも、文系男子で15位に躍進、文系女子では証券業界で第1位に輝きました。さらに、日本経済新聞社(2006年2月9日第二部)の「就職希望企業調査」では、2005年の72位から31位へと上昇、男子学生においては19位となりました。

4月には、当社グループ全体で878名の新入社員が入社しましたが、2007年度は新卒採用数を1,400名へと拡大する予定です。当社グループは、今後も「日本最高の証券グループ」を目指し、積極的な採用活動に取り組んでいきます。

## さまざまな文化芸術活動に協賛

大和証券グループ

当社グループは、文化芸術活動支援の一環として、さまざまな事業に協賛しています。

2005年5月に「フェニーチェ歌劇場日本公演2005」に特別協賛したほか、2006年1月には、ロシアの国民的英雄ワレリー・ゲルギエフが指揮する、マリンスキー・オペラ来日公演「ニーベルングの指輪」に協賛しました。

また、本年6～11月に開催されている「ルーヴル美術館展 古代ギリシア芸術・神々の遺産」(東京・京都)にも特別協賛しています。大好評を博した昨年に続き、今年はルーヴル美術館の作品群の中から古代ギリシア芸術に焦点を絞り、門外不出の《アルルのヴィーナス》や《ボルゲーゼのアレス》など、選りすぐりの134点が出展されています。

「ルーヴル美術館展  
古代ギリシア芸術・神々の遺産」

### 開催日程

東京展(東京藝術大学 大学美術館)

6月17日～8月20日

京都展(京都市美術館)

9月5日～11月5日



アルルのヴィーナス  
前1世紀(原作:前360年頃)  
©D. Lebee et C. Deambrosio / Musee du Louvre

# CSR(企業の社会的責任)への取組み

大和証券グループでは、企業理念の実践、すなわちステークホルダー(利害関係者)のみなさまからの信頼を獲得するための取組みがCSR(Corporate Social Responsibility)であると考えています。ここでは特に、社会とのかかわりの中での取組みの一部をご紹介します。

## 『持続可能性報告大賞』を受賞

1月11日、環境省で「第9回環境コミュニケーション大賞(主催:財団法人地球・人間環境フォーラム)」の選考結果の発表が行われ、その環境報告書部門において、「大和証券グループ 持続可能性報告書2005」が『持続可能性報告大賞(環境大臣賞)』を受賞しました。金融機関としては、初めての受賞となります。

当社グループでは、持続可能性に向けた活動とCSR(企業の社会的責任)に関する情報について、わかりやすく誠実に開示することを目的に、『持続可能性報告書』を2002年より毎年発行しています。2005年版の報告書は、本業を通じた「社会的課題の解決」という本来のCSRの姿を報告し、多様なステークホルダーと従業員の顔が良く見える内容であった点が高く評価されました。



## 「スチューデントカンパニー・プログラム」への参加

当社グループは、京都・立命館高等学校が正課として導入した「スチューデントカンパニー・プログラム」(SCP)に昨年に引き続き協力しました。SCPとは、世界最大の経済教育団体 ジュニア・アチーブメントの教育プログラムで、学生が会社を設立し、生産・販売など16週間にわたり会社経営を行うものです。当社グループからは、社員2名が同校に赴き、社外取締役としてアドバイスをを行いました。参加した学生15名は、会社経営を通じて、社会や経済の動き、企業の社会的責任とは何かを学び、意思決定力を育みました。



# CSR(企業の社会的責任)への取り組み

## 5年ぶりにエコ・ファンドを発売

大和証券は、2月に、日本では5年ぶりとなるエコ・ファンド「ダイワ・エコ・ファンド」の販売を開始しました。同ファンドは、日本の証券取引所上場株式の中から、環境への取組みと株主資本の活用の両面で優れた銘柄に投資し、信託財産の成長を目指す投資信託商品です。3月末日現在、資産残高は約533億円に達しています。



## 被災地に対する支援

当社グループが2005年2月に設置した「大和証券グループ津波復興基金」を通じた下記の支援プログラムが、2005年9月より現地のNGO(非政府団体)によって始まりました。この基金は、2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震・インド洋津波で被災された方々の復興を支援するために設置したもので、毎年1000万円を10年間継続して拠出します。



各被災地への支援内容

スリランカ	女性の自立と開発プログラム	320万円
	子どもの精神的ケアと教育支援事業	160万円
インド	身体障がい児の職業訓練と自立支援事業	119万円
インドネシア	子どもの精神的ケアと教育支援事業	260万円

この他、2005年8月に米国に上陸した大型ハリケーン「カトリーナ」、および2005年10月に発生したパキスタン地震によって被災された方々を支援するために、日本赤十字社に対して、それぞれ100万円を寄付しました。被災された方々の1日も早い復興をお祈りします。

## 新入社員によるボランティア活動

2005年度の当社グループ新入社員(約720名)は、「企業市民活動研修」として、研修センター内での障がい者体験(手話・アイマスク・車椅子)や、研修センターのある東京都摩市の介護老人保健施設や特別養護老人ホームのケアサポートを行いました。研修を通じて、より多くの社員が企業と社会の関わりについて理解し、行動することを目的としています。



# アンケート集計結果

昨年12月に実施しました、株主のみなさまへのアンケートにつきまして、以下のとおり集計結果をご報告させていただきます。返信数は約8,800通にのぼり、昨年9月末の株主さま(108,992名)のうち、約8%の方からご返信いただきました。みなさまのご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

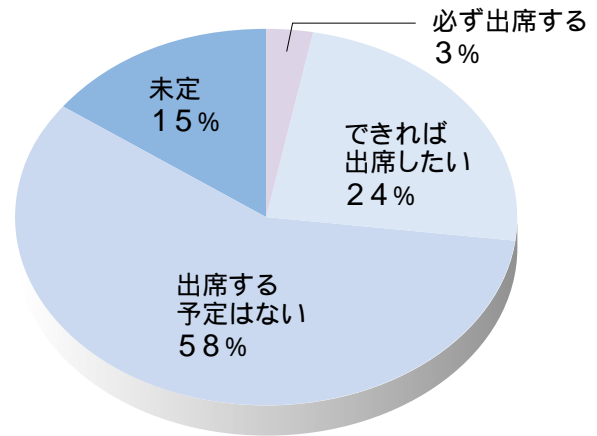
## 1. 株主総会について

### (1) 株主総会への出席のご予定

ご回答いただいた株主さまのうち、「必ず出席する」「できれば出席したい」は合わせて27%となりました。

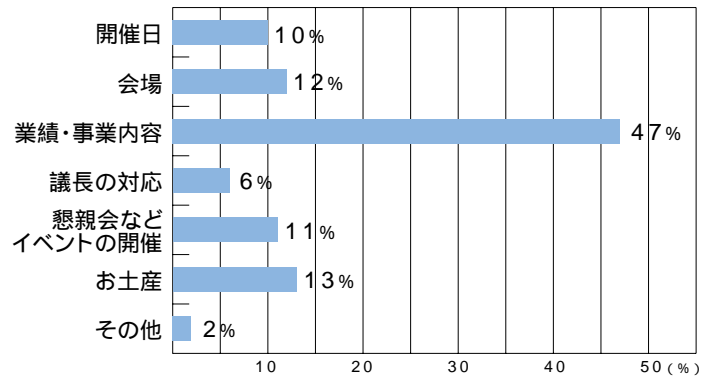
当社では、株主総会をより多くの株主さまにご覧いただきたいとの考えから、大阪と名古屋の特設会場にて衛星同時中継を行っています。

衛星同時中継会場では議決権行使はできません



### (2) 株主総会で重視すること(複数回答)

株主総会においては、「業績・事業内容」を重視する方が47%と最も多く、続いて「お土産」が13%、「会場」が12%となりました。

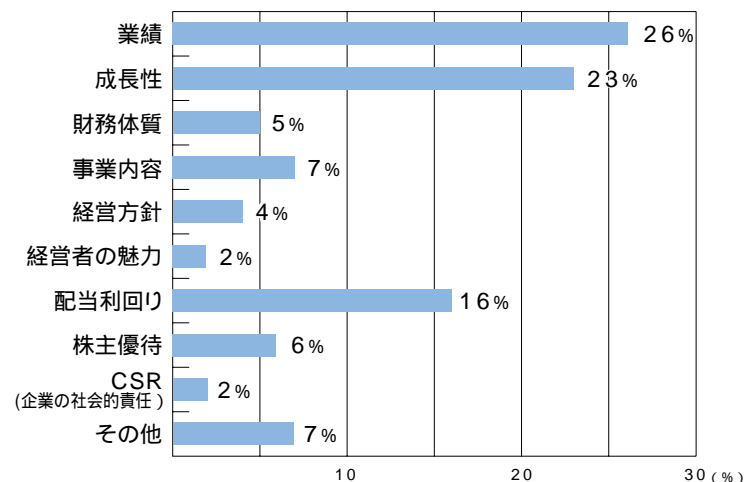


## 2. 当社株を取得した理由について(複数回答)

当社株を取得した理由について、「業績」とご回答された方が26%、「成長性」が23%、「配当利回り」が16%となりました。

当社の2005年度の連結決算は、経常利益、当期純利益ともに持株会社体制移行後の最高を記録し、ROE(自己資本利益率)では19.4%と大手総合証券3社中トップを維持しました。また、配当金も過去最高を大きく上回る1株当たり34円としました。

今後も業績の向上と積極的な株主還元を努めます。

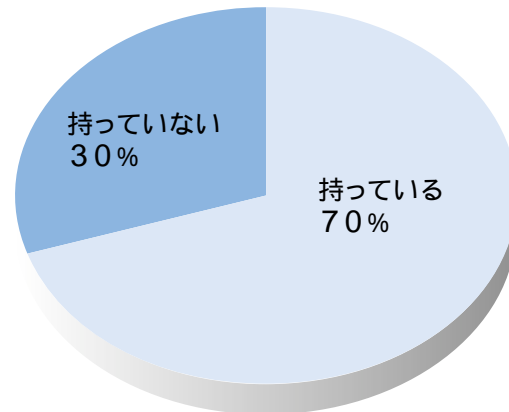


# アンケート集計結果

## 3. 大和証券での口座保有状況について

大和証券に口座をお持ちの株主さまは70%となりました。

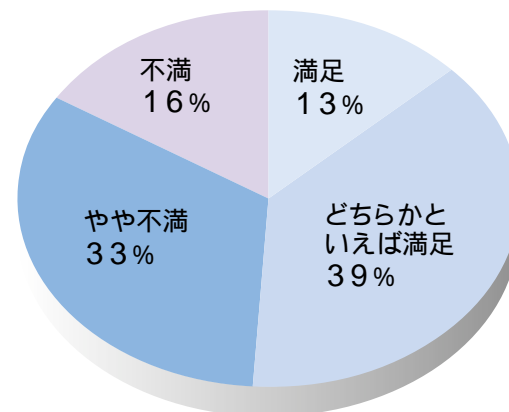
当社では、大和証券の「ダイワの証券総合サービス」にご加入いただいている単元株以上保有の個人株主さまに、株主優待として「ダイワのポイントプログラム」の交換ポイントを贈呈しています(お申込みハガキの返送が必要です)。



## 4. 当社の株主優待について

### (1) 現在の株主優待への満足度

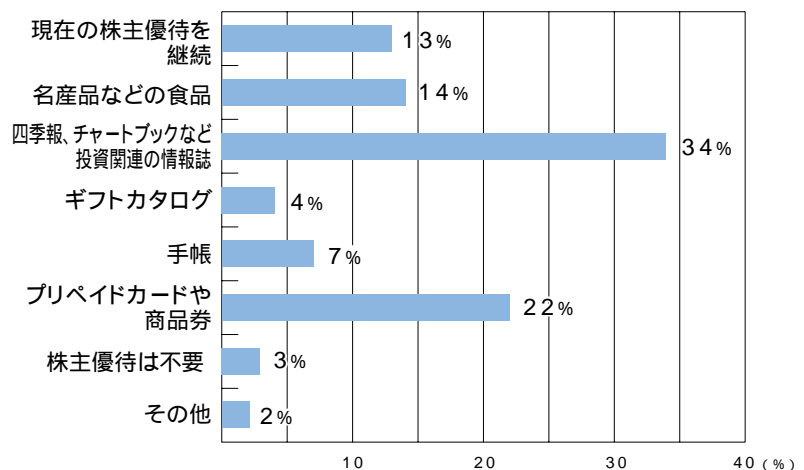
現在の株主優待について、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が52%、「やや不満」「不満」の合計が49%と、約半数ずつに分かれました。



### (2) 今後希望する株主優待

今後ご希望される株主優待として、「四季報、チャートブックなど投資関連の情報誌」とご回答された方が34%と最も多く、「プリペイドカードや商品券」が22%、「名産品などの食品」が14%、「現在の株主優待を継続」が13%となりました。

こうした結果を反映し、今年から「会社四季報」を株主優待物に追加しました。みなさまのお申込みをお待ちしています。



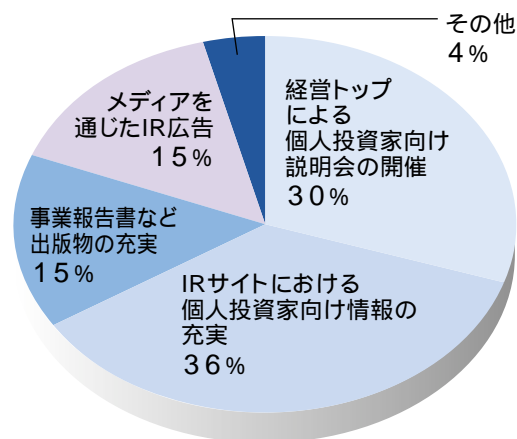
## 5. 個人投資家向けIR活動について(複数回答)

効果的な個人投資家向けIR<sup>1</sup>活動として、「IRサイトにおける個人投資家向け情報の充実」とご回答された方が36%、「経営トップによる個人投資家向け説明会の開催」が30%となりました。

近く、当社ホームページのIRサイト<sup>2</sup>に個人投資家のみなさま向けのページを新設する予定です。ぜひご覧下さい。

<sup>1</sup> IR(Investor Relations)=投資家向け広報活動  
企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動。

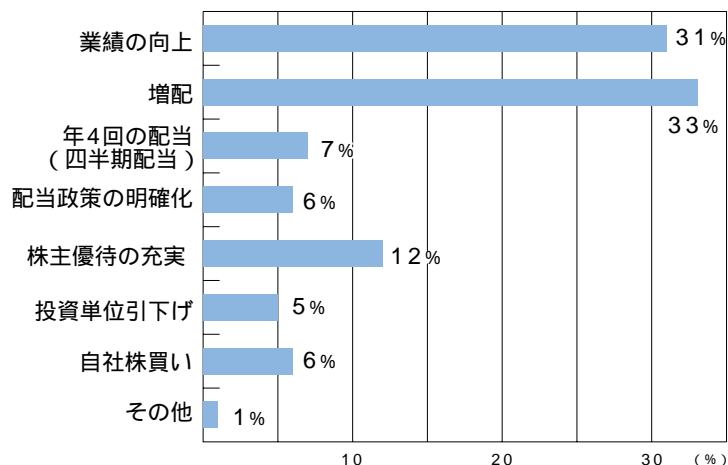
<sup>2</sup> 当社のIRサイト(IR情報のホームページ): [www.daiwa.jp/ir/](http://www.daiwa.jp/ir/)



## 6. 当社株の投資魅力を高めるために(複数回答)

当社株の投資魅力を高めるために有効な施策として、「増配」とご回答された方が33%、「業績の向上」が31%、「株主優待の充実」が12%でした。

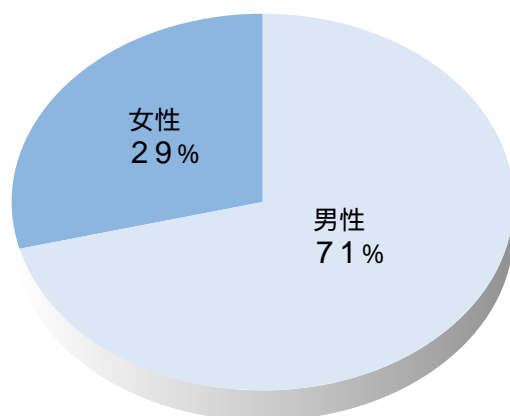
当社の2005年度の年間配当金は1株当たり34円と、過去最高であった1989年度および1990年度の14円を大幅に上回る水準としました。今後も一層の収益拡大を目指し、ステークホルダー(利害関係者)のみなさまに還元していきます。



## 7. 株主さまについて

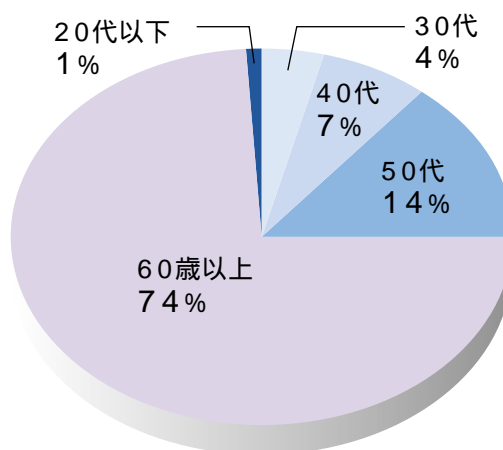
### (1)性別

ご回答いただいた株主さまのうち、男性が71%、女性が29%でした。



### (2)年齢

ご回答いただいた株主さまのうち、60歳以上の株主さまが74%と最も多く、続いて50代が14%、40代が7%、30代が4%となりました。



# 株式・株価の状況

## 株主数および株式数の状況

(2006年3月31日現在)

所有者区分	株主数(名)	株主数比率	株式数(千株)	株式数比率(カッコ内:2005年3月末)
個人	96,526	97.5%	231,591	17.4%(20.9%)
金融機関	299	0.3%	515,989	38.7%(40.6%)
国内法人	1,484	1.5%	65,477	4.9%(5.4%)
外国人	666	0.7%	494,881	37.1%(31.5%)
その他	67	0.1%	24,520	1.8%(1.6%)
合計	99,042	100.0%	1,332,460	100.0%(100.0%)

(注1)株式数は千株未満を切捨てています。

(注2)「その他」には、政府・地方公共団体、証券会社、自己名義株式が含まれます。

## 大株主(上位10名)

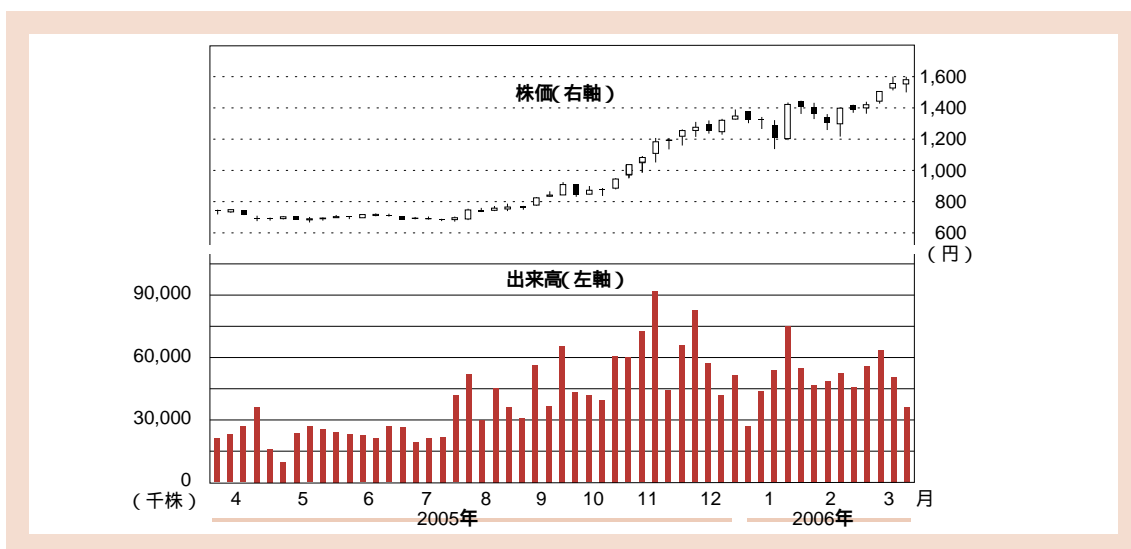
(2006年3月31日現在)

株主名	持株数(持株比率)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	107,359千株(8.06%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	58,492千株(4.39%)
株式会社三井住友銀行	30,328千株(2.28%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	25,900千株(1.94%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口	24,888千株(1.87%)
太陽生命保険株式会社	23,140千株(1.74%)
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	21,116千株(1.58%)
日本生命保険相互会社	20,867千株(1.57%)
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	20,624千株(1.55%)
ザ チェース マンハッタン バンク 385036	18,314千株(1.37%)

(注)株式数は千株未満を切捨てています。

## 株価および出来高の推移

2005年4月1日～2006年3月31日(東京証券取引所)



## 東京証券取引所における当社株価

(2005年4月1日～2006年3月31日)

始値	高値	安値	終値	一日平均出来高
707円	1,598円	641円	1,579円	8,914千株



## 株券を喪失した場合には

お手持ちの株券を盗難、紛失、焼失などにより喪失された場合は、株券失効制度に基づき、株券喪失登録請求を行い、登録日翌日より1年の期間経過をもって株券を無効とさせることにより株券の再発行が可能となります。

詳しくは、下記の住友信託銀行の電話照会先(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

## 住所変更のお手続きについて

ご住所を変更された場合、株主名簿の変更手続きが必要となります。お手続きをお忘れになると、株主総会招集ご通知や配当金関係書類などをお届けできなくなりますので、ご注意ください。

### < 手続方法 >

下記の住友信託銀行の電話照会先 **フリーダイヤル** または大和証券、日本証券代行の本支店までご連絡ください。  
お手続きに必要な書類をご送付いたします。

\*保管振替制度をご利用の方は、お取引先の証券会社等へのお届出となります。

## 単元未満株式の買増しについて

当社では、単元未満株式に不足分を買増して単元株式数(定款第7条:当社の単元株式数は、1,000株とする)におまとめいただけるよう、単元未満株式の買増制度を採用しています。

なお、当社では、毎年3月31日から起算して12営業日前から3月31日までの間、および9月30日から起算して12営業日前から9月30日までの間、買増しの受付を停止していますのでご注意ください。

具体的なお手続きに関するご照会は、下記の住友信託銀行の電話照会先(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

\*保管振替機構への預託単元未満株式については、お取引先の証券会社等を経由してのお手続きとなります。

## 単元未満株式の買取りについて

お手持ちの単元未満株式については、株券発行の有無にかかわらず、当社に買取請求をすることができます。買取請求はいつでも可能です。

ご請求は、住友信託銀行または日本証券代行の本店および全国各支店、または証券会社の窓口にて受け付けています。

\*保管振替機構への預託単元未満株式については、お取引先の証券会社等を経由してのお手続きとなります。

## 株式についてのご案内

### 決算日

3月31日(年1回)

### (電話照会先)

住友信託銀行株式会社 証券代行部

### 株主確定日(注)

期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

### 住所変更専用紙のご請求

フリーダイヤル

**0120 175 417**

オペレーター対応 平日9:00~17:00  
自動音声対応 平日上記時間帯以外  
および土・日・祝日  
混み合っている場合、自動音声となります。

### その他のご照会

フリーダイヤル

**0120 176 417** (オペレーター対応 平日9:00~17:00)

### 定時株主総会

6月下旬(基準日3月31日)

### 株主名簿管理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

### インターネットホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

### 同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

### 同取次所

住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店  
大和証券株式会社 本店および全国各支店(\*)  
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店(\*)

(\*)2005年12月1日付で取次を開始しました。

### (郵便物送付先)

〒183 8701  
東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

### 公告掲載方法

電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載URL <http://www.daiwa.jp/ir/shareholders/>

(注)剰余金の配当については、必要に応じ基準日を定めて実施することがございます。

## 会社概要 (2006年6月24日現在)

商号	株式会社大和証券グループ本社 英文：Daiwa Securities Group Inc.
証券コード	8601
所在地	〒100-8101 東京都千代田区大手町 二丁目6番4号
電話	(03) 3243-2100(代)
創業日	1902年5月1日
設立日	1943年12月27日
代表者	執行役社長 鈴木 茂晴
資本金	1,388億円(2006年3月31日現在)
事業内容	証券関連業務及びその遂行を支援する業務 を営む国内及び海外の子会社、関連会社の 株式を所有することによる当該会社の支配・ 管理
ホームページ	<a href="http://www.daiwa.jp/">http://www.daiwa.jp/</a>
IRサイト	<a href="http://www.daiwa.jp/ir/">http://www.daiwa.jp/ir/</a>

## 役員 (2006年6月24日現在)

取締役	執行役
取締役会長 原 良也	代表執行役社長・CEO 鈴木 茂晴
取締役副会長 清田 瞭	代表執行役副社長・COO 斎藤 辰栄
取締役 鈴木 茂晴	執行役副社長 前 哲夫
取締役 斎藤 辰栄	執行役副社長 野田 賢治郎
取締役 前 哲夫	執行役副社長 樋口 三千人
取締役 吉留 真	執行役副社長 武本 嘉之
取締役 日比野 隆司	専務執行役 吉留 真
取締役 岩本 信之	常務執行役 日比野 隆司
取締役 林部 健治	常務執行役・CIO 中村 明
社外取締役 川上 哲郎 (住友電気工業株式会社 相談役)	執行役・CFO 岩本 信之
社外取締役 安田 隆二 (一橋大学大学院 教授)	執行役 若林 孝俊
社外取締役 北島 敬介 (弁護士)	執行役 横井 正道
社外取締役 宇野 紘一 (公認会計士)	執行役 原 良也
	執行役 清田 瞭

(注) CEO.....最高経営責任者 COO.....最高執行責任者  
CIO.....情報技術担当 CFO.....最高財務責任者

## 主要国内グループ会社

大和証券株式会社	本社 〒100-8101 東京都千代田区大手町二丁目6番4号 電話(03) 3243-2111 代表者 鈴木 茂晴 ホームページ <a href="http://www.daiwa.co.jp/">http://www.daiwa.co.jp/</a>
大和証券エスエムビーシー株式会社	本社 〒100-8289 東京都千代田区丸の内一丁目8番1号 電話(03) 5633-8000 大阪支店(06) 6454-7000 名古屋支店(052) 963-7200 代表者 斎藤 辰栄 ホームページ <a href="http://www.daiwasmbc.co.jp/">http://www.daiwasmbc.co.jp/</a>
大和証券投資信託委託株式会社	本社 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町二丁目10番5号 電話(03) 5695-2111 代表者 樋口 三千人 ホームページ <a href="http://www.daiwa-am.co.jp/">http://www.daiwa-am.co.jp/</a>
株式会社大和総研	本社 〒135-8460 東京都江東区冬木15番6号 電話(03) 5620-5100 代表者 武本 嘉之 ホームページ <a href="http://www.dir.co.jp/">http://www.dir.co.jp/</a>
大和住銀投信投資顧問株式会社	本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目7番9号 電話(03) 3243-2915 代表者 大村 信明 ホームページ <a href="http://www.daiwasbi.co.jp/">http://www.daiwasbi.co.jp/</a>
株式会社大和証券ビジネスセンター	本社 〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目3番2号 電話(03) 5633-6100 代表者 福田 憲一 ホームページ <a href="http://www.daiwa-dsc.co.jp/">http://www.daiwa-dsc.co.jp/</a>
大和プロパティ株式会社	本社 〒103-8219 東京都中央区日本橋茅場町一丁目1番9号 電話(03) 3665-5601 代表者 盛本 正英 ホームページ <a href="http://www.daiwa-property.co.jp/">http://www.daiwa-property.co.jp/</a>
エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズ株式会社	本社 〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目2番1号 電話(03) 5201-1515 代表者 山村 信一 ホームページ <a href="http://www.nifsmbc.co.jp/">http://www.nifsmbc.co.jp/</a>

フリーダイヤル

コールセンター 0120-010101 ホームページ <http://www.daiwa.co.jp/>

本店(03)3243-2626 本店ステーションプラザ(03)3243-2626

● 北海道・東北地区 ●

札幌支店	(011) 214-6111
釧路支店	(0154) 23-0161
青森支店	(017) 777-2111
盛岡支店	(019) 652-1171
仙台支店	(022) 221-5111
秋田支店	(018) 831-2811
山形支店	(023) 622-8151
福島支店	(024) 622-3111
郡山支店	(024) 932-3111
いわき支店	(0246) 23-0111

● 関東地区(東京除く) ●

水戸支店	(029) 226-9111
宇都宮支店	(028) 621-3531
高崎支店	(027) 827-7111
大宮支店	(048) 642-3881
大宮支店西口ステーションプラザ	(048) 648-5500
浦和支店	(048) 834-6111
川口支店	(048) 225-3611
所沢支店	(04) 2922-8111
所沢支店ステーションプラザ	(04) 2922-8111
千葉支店	(043) 227-8181
船橋支店	(047) 424-2111
松戸支店	(047) 866-5111
うすい支店	(043) 462-1009
柏支店	(04) 7166-2701
横浜支店	(045) 671-6700
横浜駅西口支店	(045) 811-1271
戸塚支店	(045) 864-1715
川崎支店	(044) 244-2121
藤沢支店	(0466) 23-8111
鎌倉支店	(0467) 23-1616
厚木支店	(046) 224-8111
茅ヶ崎支店	(0467) 58-6111
横須賀支店	(046) 821-1800

● 東京地区 ●

日比谷支店	(03) 8508-8111
銀座支店	(03) 6250-8585
新宿支店	(03) 8352-5141
新宿センタービル支店	(03) 8345-1661
上野支店	(03) 8832-0191
亀戸支店	(03) 8681-3181

五反田支店	(03) 8493-1211
自由が丘支店	(03) 8717-0141
蒲田支店	(03) 8732-9171
大森支店	(03) 8471-3311
成城支店	(03) 8415-5211
渋谷支店	(03) 8463-9211
中野支店	(03) 8385-1311
池袋支店	(03) 8982-2141
池袋西口支店	(03) 8980-1005
赤羽支店	(03) 8903-0311
練馬支店	(03) 8992-0131
千住支店	(03) 8879-6111
吉祥寺支店	(0422) 22-9311
三鷹支店	(0422) 41-0777
国立支店	(042) 871-0211
立川支店	(042) 826-1711
八王子支店	(0426) 44-2211
多摩支店	(042) 875-5511
町田支店	(042) 722-2131

● 中部・北陸地区 ●

新潟支店	(025) 223-4101
長岡支店	(0258) 87-9001
富山支店	(076) 424-2411
高岡支店	(0766) 21-3500
金沢支店	(076) 262-4211
福井支店	(0776) 22-3311
甲府支店	(055) 222-0121
長野支店	(026) 227-6501
松本支店	(0263) 85-0131
岐阜支店	(058) 265-2171
静岡支店	(054) 254-3151
浜松支店	(053) 454-1411
沼津支店	(055) 862-3590
名古屋支店	(052) 863-7111
名古屋駅前支店	(052) 871-3111
豊橋支店	(0532) 65-0011
岡崎支店	(0564) 24-6811
一宮支店	(0586) 71-6311
津支店	(059) 226-7111

● 近畿地区 ●

彦根支店	(0749) 23-2111
京都支店	(075) 251-2111

大阪支店	(06) 6454-7778
梅田支店	(06) 6373-3311
難波支店	(06) 6632-5151
京橋支店	(06) 6354-1201
阿倍野支店	(06) 6624-0333
岸和田支店	(0724) 23-3501
豊中支店	(06) 6854-1131
茨木支店	(072) 632-0651
神戸支店	(078) 892-7911
姫路支店	(0792) 23-2881
尼崎支店	(06) 8411-1481
明石支店	(078) 817-0001
西宮支店	(0798) 66-3500
奈良支店	(0742) 23-1271
和歌山支店	(073) 431-1131

● 中国地区 ●

鳥取支店	(0857) 29-1511
松江支店	(0852) 27-7151
岡山支店	(086) 225-1111
広島支店	(082) 228-5211
福山支店	(084) 831-3333
下関支店	(0832) 81-5151
徳山支店	(0834) 21-5601

● 四国地区 ●

徳島支店	(088) 623-0131
高松支店	(087) 822-2222
松山支店	(089) 841-7101
新居浜支店	(0897) 83-5800
高知支店	(088) 823-0323

● 九州・沖縄地区 ●

福岡支店	(092) 713-4007
北九州支店	(093) 831-1141
久留米支店	(0942) 83-2131
佐賀支店	(0952) 24-6121
長崎支店	(095) 823-0181
熊本支店	(096) 853-2551
大分支店	(097) 837-8111
宮崎支店	(0985) 29-5211
鹿児島支店	(099) 223-5141
那覇支店	(098) 861-5200

2006年8月11日の営業終了をもって、大宮支店西口ステーションプラザを閉鎖する予定です。

お客様相談センター  
**03-3665-5111**

受付時間 午前9時から午後5時まで(土・日・祝日を除く)

「お客様相談センター」では、お客様のご意見、ご要望、苦情などを専用電話にてお伺いしています。お客様からお寄せいただいた「声」に真摯に耳を傾け、その声を企業活動に活かし、サービスやお客様満足度の向上に役立て、「お客様から選ばれる証券会社」を目指します。

## 大和証券グループ本社の株主優待

大和証券グループ本社では、毎年3月末現在の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載されている株主さまを対象に、株主優待を実施しています。  
2006年3月末の株主さまを対象とした株主優待は、以下のとおりです。(\*)

お申込みいただいたすべての株主さまに

壁掛けカレンダーを贈呈

さらに1,000株以上保有の株主さまに

「ダイワのポイントプログラム」の交換ポイントを贈呈(\*\*)

保有株式数	交換ポイント
1,000～4,999株	2,000ポイント
5,000株以上	5,000ポイント

大和証券に口座をお持ちでない場合、または交換ポイントを希望されない場合、1,000株以上5,000株未満保有の株主さまには「会社四季報(1冊)新春号」もしくは「株主優待ガイド」「税金読本」の2冊セットを、5,000株以上保有の株主さまには「会社四季報(2冊)新春号&春号」もしくは「会社四季報(1冊)新春号」「株主優待ガイド」「税金読本」の3冊セットを、ご希望に応じて贈呈します。

上記株主優待は、本誌に同封のお申込みハガキを、9月末までにご返送いただいた株主さまへの贈呈となります。

\* 優待内容は、今後変更となる場合があります。なお、次回の株主優待の権利確定日は2007年3月末を予定しています。  
\*\*「ダイワのポイントプログラム」は、大和証券グループ本社の子会社である大和証券のサービスです。交換ポイントでご利用いただける「ダイワのポイントプログラム」のサービス内容は、今後変更となる場合があります。

交換ポイントのお申込みには、大和証券での口座開設および「ダイワの証券総合サービス」への加入が必要となります。

交換ポイントの付与はお申込みハガキの到着後、順次行います。また、カレンダーおよび「会社四季報(新春号)」「株主優待ガイド」「税金読本」の発送は12月中旬までに、「会社四季報(春号)」の発送は2007年3月中旬に行う予定です。

交換ポイント残高および12月末で失効するポイント数は、大和証券ホームページ(ログイン後)または「取引残高報告書」でご確認いただくか、お取扱窓口までお問い合わせください。

「ダイワの証券総合サービス」は個人のお客さまを対象としたサービスです。法人の株主さまには、「会社四季報」や「株主優待ガイド」「法人投資家のための証券投資の会計・税務」を保有株式数に応じて贈呈します。

「ダイワの証券総合サービス」および「ダイワのポイントプログラム」についてのお問い合わせは、大和証券の本・支店または  
コールセンター(フリーダイヤル 0120-010101)までご連絡ください。  
(平日 8:00～22:00 / 土・日・祝日 9:00～17:00)



2006年版カレンダー



お問い合わせ先

大和証券グループ本社 IR室

TEL : (03) 3243-3841 FAX : (03) 3242-0955

eメールアドレス : ir-section@dsgi.daiwa.co.jp

